

苦勞といたわりの心を学ぶ

厳原で「交通バリアフリー教室」



車いすでの移動を体験する児童たち



目の不自由な人の誘導体験の様子

九州運輸局主催による「交通バリアフリー教室inいづはら」が10月24日、厳原港旅客船ターミナルとフェリー「ちくし」を会場に開催され、厳原小学校の6年生児童63名が参加しました。

この教室は、高齢者や障害者の疑似体験や介助体験などを行うことで、交通弱者の立場に立つて、バリアフリーについての理解と思いやりの気持ちを持ってもらおうと対馬では初めて実施されたものです。

スタッフの説明を受けたあと、子どもたちはペアを組ん

で車いすやアイマスクを使用して岸壁やフェリー内での移動と誘導を体験しました。

参加した飯束拓真くん（11歳）は、「車椅子で段差を乗り越える際、傾いて怖かった。車いすはちよっと押しただけでも進む。勉強になりました」と感心した様子。また、アイマスクで同級生に誘導された主藤輝くん（12歳）は、「とても怖かった。柱が何かに一度ぶつかった。目が見えないのは、大変なこと。障害者を見かけたら、ぜひ助けてあげたい」と話していました。

日韓両国の有志でつくる対馬韓国先賢顕彰会が、老朽化が進んでいた上県町久原の佐奈豊公園にある「朝鮮国王姫の墓」を再建し、10月31日、現地で開催されました。

今回整備されたのは、墓の台座や日本語と韓国語で書かれた説明碑などで、事業費は約200万円。費用は韓国からの浄財で賄われました。

竣工式には、同会のメンバーや市関係者、地元住民に加え、韓国からのツアー客を含む約200名が出席。地元区長らが献花を行い、韓国のお坊さんが慰霊の舞を捧げまし



上県町久原にある朝鮮国王姫の墓

朝鮮国王姫の墓再建竣工式
対馬韓国先賢顕彰会

た。

この墓は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に、ある武将が朝鮮から連れてきた姫を祀ったという伝説が残されており、道路改良などによって墓の場所を変えながらも、約400年間にわたって地元の人々に護りつがれてきました。

式典を見守った地元の人には「子どもの頃、山の中にあつたこの墓を見ていました。とてもきれいに整備されて姫様も喜んでいてほしい」と嬉しそうでした。

知る。

人間の一生は一回しかありません。多くの人が快適で有意義な生活をしたいものです。そのためには、よい政治が行われなければなりません。政治に関心を持つ人を一人でも増やし、よい政治家を議会に送ることで

来ていただいた市会議員の方も終始情熱的に、議会で討議されたことを話していただきました。住民のための政治が行われることを確信した一日でした。

市民からの寄稿

「市会議員に聴く会」

に参加して

(豊玉町佐保)

豊玉町佐保の公民館事業として10月25日、数名の市会議員に来ていただいて、市政について話をいただきました。

会のねらいとして 市政に関心を持ち、住民として市政へ参加する意欲を育てる 市政と日常生活とのつながりを



市会議員に聴く会の様子

ドクターヘリ導入へ向けて
市消防本部が搬送訓練



長崎県が12月1日に運用を開始したドクターヘリ

12月1日の運用開始を前に、ドクターヘリの実地訓練が11月6日、対馬市で行われ、市消防署員30名が参加。救急隊との連携訓練を行いました。

ドクターヘリは、医療機器を装備し医師と看護師が搭乗して、患者を速やかに医療機関に搬送できる専用のヘリコプターで「空飛ぶ救命室」と呼ばれています。患者2名まで搬送可能で巡航速度は時速約250km。長崎医療センター（大村市）のヘリポートを基地とし、要請から5分以内に離陸できる態勢がとられています。

長崎県の導入は全国で10番目。運用は昼間のみで、要請から対馬到着までの所要時間は約50分。公園や学校のグラ

ウンドなど島内の46箇所が離着陸場所として指定されています。

訓練では、市消防本部より出動要請を受けたヘリが、対馬空港へ着陸。救急車で搬送されてきた患者を機内に収容し、離陸するまでの手順が訓練されました。

なお、対馬でのヘリコプターによる患者の搬送件数は昨年1年間で64件、今年（11月6日時点）は45件となっています。

（社）日本損害保険協会より
軽消防車が贈られました
対馬市消防団



日本損害保険協会より贈られた軽消防車

対馬市消防団に社団法人日本損害保険協会より全自動小型動力ポンプ付軽消防自動車

これは社団法人日本損害保険協会が離島に対して行う消防施設寄贈事業によるもので、全国に贈られた5台のうちの1台です。自動制御される小型動力ポンプを積載し、消防機材のほか、電動油圧式のポンプ昇降装置を備えた4人乗りの消防自動車です。

11月15日、上県第6分団第2部（上県町志多留地区・団員7人）に配備されました。

「火の用心」を呼びかけ
火災予防パレード



佐賀保育所の鼓笛隊

11月9日、「秋の全国火災予防運動」の初日、峰と豊玉の両町で防火パレードが行われました。

峰町では、地元消防団が地区内をくまなく巡回し「火の用心」を呼びかけ、佐賀地区では、佐賀保育所幼年消防ク



豊玉幼年消防クラブ

ラブの火災予防鼓笛隊が元氣よく行進し、火災予防の啓発に一役買いました。

また、豊玉町では、仁位保育所の園児でつくる豊玉幼年消防クラブが楽器を演奏しながら元氣よく行進しました。

本番さながらに
旅客船事故想定訓練



11月17日、上対馬比田勝港で、火災事故想定訓練が実施されました。

フェリーあがたからの火災

発生を想定し、消火活動と負傷者救助活動を比田勝海上保安署、対馬市消防本部、九州郵船株が協力して行いました。訓練では発煙筒を火災に見立て、ヘリコプターによる負傷者救助等、本格的な想定訓練が実施されました。

ど根性トマト
豊玉町で発見！



温かく見守ってください。

コンクリート側溝のわずかなすき間から生えたトマトが豊玉町東加藤で見つかりました。同地区の赤木政吉さんから連絡をいただき早速駆けつけたところ、電柱とコンクリートのすき間から伸びた立派なトマトでした。

たくましく生き抜くトマトを、温かく見守ってあげたいですね。

秋晴れの下で「たんれん遠足」

10、11月にかけて、厳原の各小学校で「秋のたんれん遠足」が実施されました。



鮎もどし公園の帰り道は、空き缶を拾いました。(10/18、瀬分校)



がんばって歩いた後のご飯はおいしいね。(上見坂、10/27、厳原小)

1年から6年生まで協力して登りました。(上見坂、10/27、金田小)



上見坂からの帰りは山道を下りました。(11/2、厳原北小)



内山分校までの途中。5、6年生全員で内山峠でパチリ。(10/27、久田小)



全校児童で尾崎に行きました。(11/20、阿連小)

対馬からヤマネコ脈立つ
分散飼育のため東京へ

11月19日、対馬野生生物保護センターから雄のツシヤマネコ1頭(4歳)が、「井の頭自然文化園」(東京都武蔵野市)へ移送されました。

これまで、同センターと福岡市動物園の2力所でヤマネコの飼育が行われてきましたが、災害や感染症などで一度に多くのヤマネコを失う危険性を回避するため、新たに「井の頭自然文化園」と「よこはま動物園(神奈川県横浜市)の2箇所の動物園で飼育されることになったものです。

飼育先の動物園では、一般公開されることはありませんが、ヤマネコや対馬の自然に関するパネル展示が行われ、来場者へ啓発が行われる予定です。



対馬野生生物保護センターから移送されたツシヤマネコ(同センター提供)

町内から12名が参加
豊玉町少年の意見発表会



第16回豊玉町少年の意見発表会が11月4日、対馬市公会堂で開催され、小・中学校から10名、高校から2名が参加し、社会に対する希望、未来への提言、日頃生活の中で考えていることを素直に自分の言葉で主張しました。

審査の結果、「努力は無限」を発表した須川英里子さん(豊玉中2年)が最優秀賞を受賞。「日本の食料自給率」で優秀賞を獲得した森田杏奈さん(豊玉中2年)の両名が、対馬少年の主張大会に出場します。